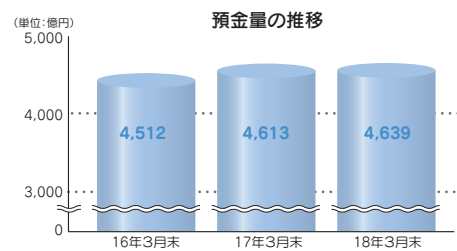


# 平成17年度事業の概況

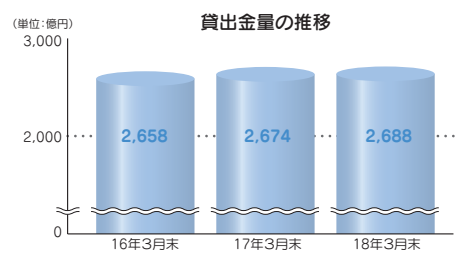
## 預金

預金につきましては、法人預金の低迷が続くなか、個人預金獲得に注力いたしました結果、年度末残高は463,985百万円(前期末比2,646百万円の増加)となりました。



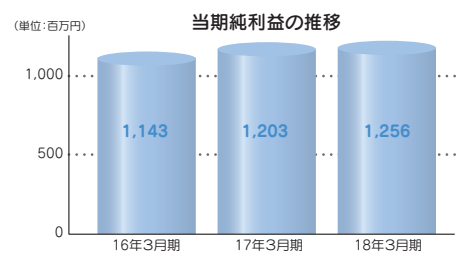
## 貸出金

貸出金につきましては、事業資金貸出金が県信用保証協会保証付融資等の推進、新商品の販売開始などの努力にもかかわらず、資金需要の大幅な落ち込みにより低調裡に止まったものの、個人向け融資は一定の成果をあげることができたことから、年度末残高は268,810百万円(前期末比1,383百万円の増加)となりました。



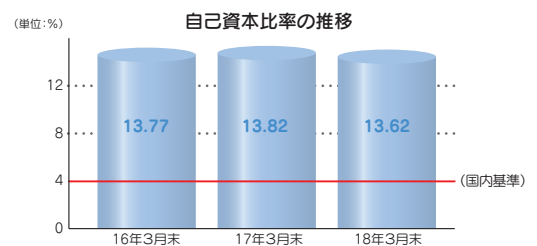
## 収益状況

収益状況につきましては、収益力の強化、効率化の推進によるコスト競争力の向上等を基本方針として、お客さまの課題解決型ビジネスモデルの構築をはじめとするさまざまな施策に取り組んだ結果、経常収益は10,410百万円(前期比189百万円の増収)、当期純利益は1,256百万円(前期比53百万円の増益)を計上いたしました。



## 自己資本比率

金融機関の健全性・安全性の重要な指標である自己資本比率(国内基準)は13.62%となりました。平成17年度は、純利益にて内部留保を積み上げましたが、年度末にかけて金利が上昇したことを受けて株式等評価差額金がマイナスとなったことが主因となり、前年度を下回りましたが、早期是正措置の適用基準である4%を大幅に上回る高い水準を維持しております。



## 経営・業務体制

- ▶平成17～18年度の2年間を重点強化期間として、事業再生・中小企業金融の円滑化、経営力の強化、地域のお客さまの利便性向上に資することを目的に「地域密着型金融推進計画」を策定いたしました。
- ▶平成17年4月に施行されたペイオフ全面解禁や個人情報保護法への適切な対応を図りました。
- ▶平成18年1月に三津浜信用金庫と「合併に関する基本覚書」を締結いたしました。合併契約書の調印は4月6日に行いました。合併期日は10月16日を予定しております。
- ▶仕七川代理店を久万支店と統合いたしました。
- ▶ローンプラザ松山を開業いたしました。
- ▶コンピュータシステムを自営から信金大阪共同事務センター事業組合のシステムへ変更いたしました。
- ▶信金中央金庫と連携し、アレンジャーとしてシンジケートローンに取り組みました。
- ▶不良債権処理促進のため、債権買取会社(サービサー)へ債権の売却を引き続き実施いたしました。
- ▶法律に基づく本人確認事務、疑わしい取引に係る事務、名寄せ事務などの指導を徹底し、関連法律の遵守を図りました。

## ■ 新規業務等

- ▶ ご好評をいただいている第12回懸賞金付定期預金「開運大吉くん」の取扱いを行いました。
- ▶ 女性専用カードローン「サーージュ」の取扱いを開始いたしました。
- ▶ 商工会議所、商工会と提携した「商工会議所・商工会メンバーズビジネスローン」の取扱いを開始いたしました。
- ▶ 法人インターネットバンキングの取扱いを開始いたしました。
- ▶ 社団法人愛媛県法人会連合会、四国税理士会と連携した「あいしん法人会・税理士会コラボレーションローン」の取扱いを開始いたしました。
- ▶ 信託銀行との代理店契約により、遺言信託・遺産整理業務の取扱いを開始いたしました。
- ▶ 投資信託と定期預金を組み合わせた商品「あいしんベストパッケージⅡ」の取扱いを開始いたしました。
- ▶ 地域活性化融資「元気計画」の取扱いを開始いたしました。

## ■ 金融機能・サービス等

- ▶ 壬生川支店・北条支店・土橋支店に店舗外ATMを増設いたしました。
- ▶ 偽造・盗難カードによる預金の不正引き出し被害防止策の一環として、お客さまのお届けによりATM・CDによる1日・1口座あたりの支払限度額と支払回数設定に加え、類推されやすい暗証番号の受付中止、異常取引の監視を開始いたしました。
- ▶ お取引先の「東京ビジネスサミット2005」への出展やビジネスマッチングを支援いたしました。
- ▶ お客さまの多様なニーズにお応えするため、投資信託、保険等の新商品を積極的に追加いたしました。
- ▶ 創業・新規事業を積極的に支援するため、フロンティア企業クラブ主催の「キャリアドベンチャー選手権」「ジュニアドベンチャー選手権」に愛媛信用金庫賞を設けました。
- ▶ 地元企業の新入社員と、当金庫の新入職員との合同研修を引き続き実施いたしました。

## ■ 事業の展望および対処すべき課題

平成18年度の県内経済は、今後全般的には回復を辿るものと思われませんが、当金庫取引先である中小零細企業や個人のお客さまへの波及は依然として業種間、規模間、地域間で区々の様相から脱しきれず、極めて緩やかなものになると思われまます。また、金融面においても量的緩和解除を機に金利の上昇は不可避の情勢にあります。

こうした状況下、当金庫は将来の指針となる新たな経営理念・経営方針を平成18年4月に制定するとともに、平成18年度を初年度とする「あいしん三か年計画～信頼度ナンバーワンの金融機関を目指して～」を策定し、更なる飛躍を目指し新たなスタートを切りました。当金庫は、信用金庫の特性や当金庫の特徴・独自性を発揮し、常にお客さまの視点に立った課題解決型の経営に徹することで、お客さまの満足度の向上を実現し、その結果として卓越した業績と、真に地域と密着した信頼度ナンバーワンの地域金融機関としての評価を確実なものにするべく、全力を傾注いたす所存です。

また、当金庫にとりましては、10月の三津浜信用金庫との合併を円滑に実現し、早期に合併効果を顕現化させることが喫緊の課題であります。金利上昇等に対するリスク管理、店舗網の再構築や営業体制の見直し、お客さまへの説明や相談・苦情処理態勢の強化、内部監査業務の充実、コンプライアンスと個人情報保護の徹底、ディスクロージャーの推進に伴う経営の透明性の確保といった諸課題に対しましても、引き続き積極的に取り組んでまいります。特に、新しい自己資本比率規制の運用開始や金融検査評定制度の導入が予定されていることから、各種リスクを統合的に管理する「統合リスク管理」態勢の整備は重要課題であると認識しております。

信用金庫は、豊かな国民生活の実現、地域の健全な中小企業の育成、地域社会繁栄への貢献という使命をもちております。現下の情勢に鑑みれば、信用金庫の使命は今後ますます重要になると同時に、より良質な金融サービスの提供や中小零細企業の金融円滑化のための力強い支援が求められると考えております。当金庫は、地域金融機関としてこうしたご要請に応えるべく、事業再生・中小企業金融の円滑化、経営力の強化、地域のお客さまの利便性向上を柱とした諸施策に取り組み、着実な実践を通じて、地域の信頼がこれまで以上に得られますよう引き続き努力してまいります。